

# 大腸がんの腹腔鏡手術

-傷が小さく体のダメージが少ないので、すぐに退院可能です。-

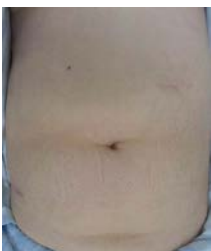
## 腹腔鏡下大腸切除術について

炭酸ガスで腹部を膨らませて腹壁に数カ所小さな穴を開けて、腹腔鏡と電気メスなどを入れて、モニター画像を見ながらがんを切除します。



従来の開腹手術（おなかを切る手術）は、腹壁を大きく切開（20～30cm）し腹腔内（おなかの中）を直接見ながら手術をしていました。

腹腔鏡手術ならば3～5cmの傷1か所、5mmの傷3か所、12mmの傷が1か所あれば手術ができます。術後の傷あとは一見してほとんど分からなくなります。



（腹腔鏡手術）



（開腹手術）

## 適応となる症例は？

早期癌が基本的な適応ですが、進行癌であっても腹腔鏡手術が可能な症

例が増えています。

## 特徴

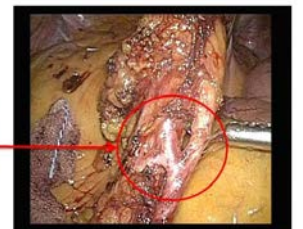
体のダメージが少なく美容的で、早く退院し社会復帰できます。さらに、腹腔鏡による拡大視効果があり、より繊細丁寧な手術が可能です。モニター画像をチーム全員の目で見て手術を行えます。



当院のCTによるシミュレーション手術前に血管の走行や腸のかたちなどが分かっているため安全確実に腹腔鏡手術が可能です。

術前のCT

腹腔鏡による実際の手術の様子



## 当院における腹腔鏡手術

2000年より積極的に導入し好成績を得ています。現在は直腸がんでもほとんど人工肛門になりません。

## 今後の見通し

医療の発展と大腸がんの増加に伴い腹腔鏡手術は年々進化し、大腸がん手術の主役を担うこととなります。近い将来には大腸がんの半数が腹腔鏡手術で行われる時代が来るといわれています。